宇都宮市教育センター **かすたネット通信** 第 21 号
令和5年4月4日発行
発行者　所長　金子　渉

あらためて「合理的配慮」を考える

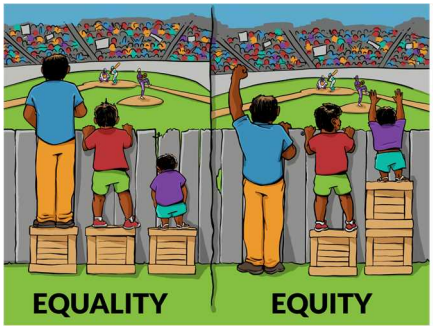
新年度，各学校では校長先生から本年度の学校経営の方針や重点目標，主な具体策などが示され，その中には特別支援教育にかかわる内容も含まれているのではないかと思います。

特別支援教育を推進する上で欠かせないのが「合理的配慮」です。合理的配慮とは，

> 「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し，又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって，特定の場合において必要とされるものであり，かつ，均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」

と定義されています（障害者の権利に関する条約）。日本がこの条約を批准するための国内法令の整備として「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が制定され，学校においても合理的配慮の提供が法的に義務付けられました。

さて，下の野球観戦のイラストは，アメリカの非営利団体 IISC（Interaction Institute for Social Change）による「平等」と「公平」を示すものですが，「合理的配慮」について理解する上でも参考になります(interactioninstitute.org ／ madewithangus.com）。



左側は「**平等**(equality)」で，皆一様に等しいことを，右側は「**公平**(equity)」で，公(おおやけ)に平らなこと，つまり一定の集団の中で偏りがないことを示しています。
個人の違いは視野に入れず，全ての人に同じものを与えるのが「平等」，個人の違いを視野に入れて，目的達成に向けそれぞれに適切なものを与えるのが「公平」です。

合理的配慮は「公平」の考え方を基盤に提供されるものであり，学校においては，学習面・生活面で，**①同じスタートラインに立てるための配慮と，②目指すゴールの設定やゴールに至る手段における配慮**とがあります（イラストは①に該当）。①は活動へのモチベーションが損なわれないために，②は「分かった」「できた」という達成感や満足感が得られるために必要な配慮です。

合理的配慮には「学習内容の変更・調整」「情報・コミュニケーション及び教材の配慮」「校内環境のバリアフリー化」など 11 の観点があります。詳しくは，国立特別支援教育総合研究所が開設しているホームページ「インクルＤＢ（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）」をご参照ください。具体例が多数掲載されています。

ところで，よく使われる「特別扱い」という言葉は，「合理的配慮」と同義でしょうか。
「配慮をする」ということは何らかの特別な対応をするわけですから，同義とも言えそうですが，「合理的」すなわち**理にかなった**対応であることを学校組織として共通認識し，それが他者に誤解なく伝わるためには，「合理的配慮」との表現が適切でしょう。
また，特定の子に対する合理的配慮に対して，周囲の子が不公平感を抱かないよう，日ごろから一人一人の違いを尊重する姿勢を示し，個に応じた指導に努めるとともに，必要があれば，保護者や他の先生方も了解している旨を説明するようにします。

今回は，新年度のスタートに当たり，子どもを迎える前に確かめておきたいことについて取り上げました。２２号とセットでお送りします。

担当　学校生活適応支援アドバイザー（飯山･大瀧）
TEL　639－4392

宇都宮市教育センター **かすたネット通信** 第２２号
令和5年4月4日発行
発行者　所長　金子　渉

チーム学校を支えるヒューマンスキル

2015 年 12 月，中央教育審議会が「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」を答申して以来，たびたび耳にする「チーム学校」。その定義は次の通りです。

> 校長のリーダーシップの下，カリキュラム，日々の教育活動，学校の資源が一体的にマネジメントされ，教職員や学校内の多様な人材がそれぞれの専門性を生かして能力を発揮し，子どもたちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校

チーム学校が機能するために教師に求められる資質・能力については，教職員評価の「能力・行動自己評価シート」の各項目の通りですが，ここでは少し視点を変えて，３つのビジネススキル（「カッツ理論」に基づく）に結び付けて考えてみます。

定義の「教職員や・・・発揮し」にかかわるのはテクニカルスキル（業務遂行能力）で，教職員においては，教科等の専門的な知識や技能がこれに当たります。
「校長の・・・マネジメントされ」にかかわるのはコンセプチュアルスキル（概念化能力）で，様々な事象の本質を捉え，適切な判断を下すスキルです。管理職に強く求められますが学級経営や各校務分掌を担う全ての教職員に必要なスキルです。
これら２つのスキルが発揮され，文末にある「子どもたちに・・・ことができる」ための基盤となる重要なスキルが，**ヒューマンスキル（対人関係能力）**と言われるものです。

ヒューマンスキルには，主に以下の７つがあります。
① **コミュニケーション**　：　一人ひとりの性格や立場を把握した上で適切に接する。
② **ヒアリング（傾聴）**：　相手の話に耳を傾け，相手の言いたいことや伝えたいことを理解する。
③ **ネゴシエーション（交渉）**：　自分と相手の双方が納得できるよう調整を図り，まとめる。
④ **プレゼンテーション**　：　自分の意見や考えを，適切に相手に伝える。
⑤ **コーチング**　：　相手が成功へのプロセスを辿れるよう，気付きや行動を促す。
⑥ **リーダーシップ**　：　組織が掲げるビジョンや目標を達成するため，影響力を発揮する。
⑦ **向 上 心**　：　より良く変わろうと，目標に前向きに取組む。⇒　相手に影響を与える。

これらは**受信力**（①②③）と**発信力**（①③④⑤⑥⑦）に括ることができます。**「受信と発信**（give & take，社会的相互作用）**のスキル**」であるヒューマンスキルを，様々な相手や状況に応じて発揮することが，広く職業人に，とりわけ教職員には求められます。

ヒューマンスキルは，職員室や学級・学年の雰囲気，「チーム学校」のカラーに大きな影響を及ぼします。子どもや保護者との間で生じる厳しい局面を乗り切っていく際にも，ヒューマンスキルの発揮の如何が展開を左右します。

子どもの側からも，学級開き・授業開始の時期に，教師に対して期待と不安を抱くのは，教師のもつヒューマンスキルです。特に，こだわりが強く，環境の急変への適応が困難な子の場合，**出会いの印象の良し悪しが，１年間の人間関係を決定付ける**ことはよくあります。新年度のスタートには慎重を期したいものです。

担当　学校生活適応支援アドバイザー（飯山･大瀧）
TEL　639－4392